

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3191400153		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホームゆりはま		
所在地	鳥取県東伯郡湯梨浜町長江310-77 レークサイド・ヴィレッジゆりはま内		
自己評価作成日	令和3年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいおらいと		
所在地	鳥取県鳥取市気高町浜村342番地		
訪問調査日	令和3年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームゆりはまは、東郷池に面した風光明媚な環境にあります。四季折々の行事やコロナ禍のため外出の制限はあるものの近隣での散策の機会を持ち、見慣れた景色を感じながら生活しています。 ・住み慣れた地域の中でその人らしい生活の支援を行うことを目標に挙げ、それぞれのユニットで家庭的な雰囲気の中、お一人お一人を尊重し、安心して穏やかに生活できるよう支援しています。 ・本体の介護老人保健施設との連携を密にし、専門職の協力体制も整っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・東郷湖湖畔の新興住宅地に7月開所し、今後の地域福祉の拠点として広域的に行政や関係機関との連携により、将来的な地域福祉貢献の準備を進めています。 ・法人内の他施設とも連携し、利用者の尊厳が守られ、ニーズに沿った適切な支援となるよう、有資格者の配置があり、職員へは各種研修が積極的に行われ、サービスの質の向上が図られています。開設間もない施設ですので個人情報、人権に関する研修などの機会を持つとさらに良いと思います。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会にて資料に記載し職員間でも周知している。理念に基づきグループホームでの目標を設定しセクション会議でも進捗状況を確認し共有している。また、部門目標から個人目標へとつなげており現場での実践に取り組んでいる。セクション会議の時に理念をふまえた話もあり研修であったりと日々意識できるような声掛け等がある。伝える場はあるが、全ての職員が理解出来ているわけではない。	事業所の入口に法人理念と事業計画を掲示しています。職員間の共有は、セクション会議や部門会議で目標設定等の周知が行なわれています。また、各ユニットごとの会議もあり継続的に理念の共有が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	令和2年7月に開設したばかりであり、周囲に家もまだ少ないこと、感染対策の為に交流はまだ出来ていない。その中でも湯梨浜町委託事業脳トレ事業は、地域交流室を開放し毎週木曜日に実施しており、地域の方々への参加も出来ている。天気の良い日は周辺を散歩してあいさつや施設の説明を行い交流する場面もあった。	事業所には地域交流の場として地域交流室が設けられています。現在、地域交流室は、町から委託された脳活トレーニング事業として毎週木曜日に開放され地域の方が参加しています。しかし、コロナ禍のため本来の交流は行われていません。この場所は、地域の福祉ゾーンとなっており、子どもや障がい者施設が建設されています。また、周囲には新しい家が建ちつつあり、今後、高齢者の一つの社会資源として地域の役割を担います。	今後地区の福祉資源として、現在の地域内での取り組みや、地区住民が増えてきた際の行事などの企画などに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年7月に開設したばかりでまだ出来ていない。地域交流室を町から依頼された脳トレ事業の会場として使用している。脳トレ事業を実施し認知症への理解や認知症予防の取り組みを地域の方々も招いて知識の共有を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回地域住民代表、ご家族代表、役場の方を招いて運営推進会議実施。施設での取り組みを報告しご意見を頂いている。	これまで運営推進会議は7月と12月に行われ、施設の運営の説明や今後の取り組みなど報告されています。また、施設の理解に向けた情報発信を行いました。運営推進会議には、地域の区長をはじめ利用者の家族も参加し、地元の情報などが聞かれています。	コロナ禍であり、地域との交流は難しい状況です。運営推進会議は定期的開催されていますが、今後、地域の声を継続的に聴く機会を持つことに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に町の長寿福祉課課長に出席して頂き情報交換を行っている。日頃より介護保険関係や、利用者状況について随時連絡をしている。生活保護利用者の方も入居されており必要に応じて役場の方との情報交換をしている。	運営推進会議に地元の町職員が参加し、地域の防災関係や世帯状況などのほか、利用者に関する介護の情報を共有する場ともなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加している。また人権委員会を中心とし、施設内巡回を実施し改善へつなげている。玄関は夜のみ施錠している。玄関、各ドアの開放をしている。センサーマットも必要以上には取り入れず行動に制限をしてない取り組みをしている。ご利用者様の行動範囲を制限しないよう帰宅願望などで行動活発の際は他職員と連携し外を一緒に歩くなどした。毎月セクション会議にてケアの振り返りを行っている。	現在、対象となる利用者はいませんが、毎月、事故防止対策委員会を中心に研修会を実施し、確認をしています。また、毎月セクション会議でケアの振り返りを行っています。身体拘束報告の流れも作成し、用紙、家族への報告等についても取り決めがされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修に参加している。虐待の芽チェックリストを実施し職員1人1人が自分のケアについて見直す機会を設けている。PCにて気付きフォルダーを設定し職員間で共有している。回覧でも全国での虐待情報を全部皆で共有している。毎月1回委員会が開催。各施設で目標を設定して毎月職員1人1人が振り返りを行い結果を取りまとめ会議で報告し、次につなげる取り組みをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修を通して話し合い、支援、対応できるように学ぶ機会を持っているが、まだほとんどの職員が研修参加出来ていない。実際に制度を利用している入居者がおられ、日々学びながら対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書に沿って説明し家族の方に確認を取りながら理解、納得して頂いている。また内容変更があった場合は再度説明し同意を頂いている。疑問や不要な点があれば何度も説明を行っている。又、後日納得いかなければ再度説明する機会をもうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族連絡時ケアプラン変更時、面会時などお話しする機会がある時には意見や要望を聞き改善につなげている。また、ご利用者には日々の会話の中やケアプランの見直し前にご意見・ご要望を伺っている。セクション会議、ユニット会議、みるみるノートを通して職員間で共有している。頂いたご意見は上席に報告し運営に反映させている。 意見箱、苦情、要望があれば毎月報告を受け意見が反映出来るよう検討会議が開催されている。	毎月広報誌や法人の機関紙も年4回発行し、利用者の生活の様子などが報告されています。遠方の家族からの要望でホームページでも広報誌を見ることが出来るようにしています。また、家族からの意見や要望は検討会議が持たれ運営に反映するとともに、職員へ周知されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員意見募集『きらっと』を実施し、職員の意見を取り入れている。セクション会議でも意見交換が出来る機会を設けている。 年3回の面談の機会にも意見を聞いている。	事業所内で接遇、設備などの項目に関する職員アンケートが毎年実施され、軽微な内容は迅速に調整しています。また年3回の面談時にも意見を聞く機会があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人での目標管理、職員基準書に取り組みこれを基に面接を行っている。疲労蓄積アンケートの実施、資格取得、技術知識の向上に向けて内外研修へ参加。 休憩スペースが設けられ、仕事から離れて休むことが出来るので気分転換が出来る環境作りが整っている。管理者より労働時間終了の声掛けもある。 年3回の面接時に職員1人1人から意見、思いを聞いている。勤務実績や目標管理などで人事考慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部への研修参加、セクション会議でもミニ研修を実施。全体会にて研修の実施。新人チェックリストの導入と指導。個人面接にて職員の能力の把握と指導を行っている。内部研修は数日開催している為、自分の都合の良い日、時間を選んで参加できる環境が設けられている。 内部研修については出来るだけ多くの人数に参加してもらえるよう勤務調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でグループホーム部会が開催され各事業所での課題・検討事項について意見交換・情報共有の場が設けられている。事例検討会も開催し、法人内の事業所が集まって、困難事例に対し意見交換・情報交換している(今年度はオンライン開催)。相互訪問は感染対策の為実施できてない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接調査時に本人や家族の意見や要望を聞きアセスメントしケアプランへ反映させている。日々生活を通して会話する機会やかかわりの中で関係作りに努め不安軽減等につながるようになっている。 24時間シート、モニタリング資料などを活用し職員間で情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前カンファ、ケアプランの見直し時に家族の意見や要望を聞いている。またそれをプランに反映させている。面会時、家族連絡時に意見を聞いている。 サービスを提供する前に家族の方に意向を確認しているがその中で疑問や不安な事も相談を受けケアに繋げたりアドバイスして関係作りにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の聞き取りの際に情報収集し利用者や家族のニーズに応じたサービスの提供や提案を行っている。 入居前の説明段階から要望、不安な事などを細かく聞き取り説明、必要であればサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の暮らしてきた様子を家族に聞き取りし、趣味や活動や自宅での生活に近い活動(食器洗い、洗濯干し、洗濯たたみ、調理への参加)を取り入れ役割や楽しみを提供している。プランにも反映し自立支援への取り組みを実施している。 入居時にご家族に今までの生活の情報を「入居時間聞き取りシート」に書いて頂き、得た情報を基に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機関紙をはじめ面会時、家族連絡時に情報提供している。 コロナで会う機会が減少している中で電話、手紙を通して利用者、家族の絆をより深められるように努めている。可能な時は窓越し面会して頂いている。 通院の対応や必要な物の購入等、ご家族の事情も考慮しながらお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で暮らしていた時のなじみの物を持参してもらい、自宅と施設での環境があまり変化しないよう落ち着ける場となるよう努めている。 行事や地域との交流事業、面会等コロナで中止が多く実施が難しかった。可能な時には面会などして頂いている。	東郷湖周辺などヘッドドライブに出かけたり、馴染みの人が面会に来られた際には柔軟に対応しています。馴染みの方との面会については入居時の説明で、家族に確認をしていますが、不十分な点が見受けられます。個人情報に関することですので全職員が共通認識できるような取り組みを期待します。	利用者の面会については、家族の理解を事前にとるなどの確認が必要です。今後、個人情報に関する研修の機会を設け職員の意識向上に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の相性、性格等に配慮しながら席の検討を行っている。必要であれば職員が間に入りコミュニケーションをとっている。 レクリエーション等を通して孤立しないように注意している。 利用者同士のトラブルがあったら職員間で話し合い対応の仕方を考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に伴う退所や他施設への入所の際には情報提供を行い退所後も必要に応じて情報提供を行い関係性を大切にしている。 退所されても必要であれば次のケアマネと連携し相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアの中で本人の思いや意向を聞き取り、ミニカンファや見直しカンファで共有しプランに反映させている。本人の日常の中での様子や会話の内容をサービス経過に記録し、アセスメントやカンファレンスに反映させている。 毎月のモニタリング資料を参考に本人の望みを知り出来ない事でも寄り添い傾聴する心を大切にしている。 利用者様の要望に沿えるように努力しているがどうしても難しい場合は家族とも相談し、より本人様の要望に近くなるようにしている。	介護計画に沿って、日々様子を細やかに記録し、毎月のモニタリングに反映しています。本人の意向に沿うよう、3ヶ月に1回、見直しカンファレンスやミニカンファレンスにて支援内容の確認をしています。利用者へ寄り添った支援を行うため職員同士の連携や意識の高さが見られます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からの聞き取り、生活歴の記入をお願いして、それを基に環境作り、生活の把握、サービスに繋げている。 ケアの中で本人とのかかわりを持ち、今までの生活状況を聞き取りGH生活の中に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の聞き取り、24時間シート5日間の経過記録にて把握している。 いつもと違う状況があれば職員間で共有、記録に残し必要であれば看護師、医師へつなげている。 センター方式などを使用し生活リズムの把握に努めている。家族にも過ごし方について情報収集を行っている。ミニカン、見直しカンファなどで情報共有し、プランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの中で本人の思いや意向を聞き取り、ミニカンファや見直しカンファで共有しプランに反映させている。本人の日常の中での様子や会話の内容をサービス経過に記録し、アセスメントやカンファレンスに反映させている。 毎月のモニタリング資料を参考に本人の望みを知り出来ない事でも寄り添い傾聴する心を大切にしている。 利用者様の要望に沿えるように努力しているがどうしても難しい場合は家族とも相談し、より本人様の要望に近くなるようにしている。	介護計画の策定は、計画作成担当者が行い、管理者や本体の施設長などが確認しています。見直しは看護師を含む職員で3ヶ月に1回実施され、その後家族カンファレンスにより、変更点に関する説明と同意を得ています。本人、家族の意向を計画に反映させるシステムが整っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	医療面は赤字、プランは青字と分けて記録している為情報の共有、把握しやすい。 みるみるノートでも情報の共有をしている。 毎日利用者全員の様子について記録を行っている。情報共有し日々のケアやプランに反映している。また事故やヒヤリハットについても経過を記録しケアに繋げている。 個別の記録を記入し共有しながら実施するように努め他職員とも相談をしながら見直しなど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他部署との連携をはかりながらサービスに繋がっている事業所内では対応できないニーズに関しては同法人内他事業所等にも相談し対応検討している。 必要物品の購入について家族と相談し購入の代行を行っている。今年はコロナ対策もあり通院についても施設対応している。家族が遠方の方もあり立替にて急な物品購入や通院にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ地域資源の把握は十分に出来ていない。必要に応じて町や居宅ケアマネに相談している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に家族や本人の意向を確認し、かかりつけ医を決定している。また、往診対応もしており、家族状況もふまえて選択できるようにしている。緊急時の搬送先医療関係の希望を聞いている。随時医療機関と連携をとっている。 ご家族が通院対応される時は受診連絡表を作成し、医師に状況や相談内容がきちんと伝わるようにしている。	これまでの医療機関に通院ができるように配慮しています。日々の健康観察や相談は、非常勤看護師が協力して行い定期受診については、地域の医療機関と連携しています。また、状況に応じて往診も行われ、結果は家族に報告されます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や変化がみられた場合は看護師に連絡、相談を行い、指示を仰いでいる。また看護師不在時でも連絡をとれる態勢はとっている。急を要する時は主治医に連絡することもある。 ・職場の看護師に随時情報共有を行い、必要な処置や受診が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護連絡表を記入し、医療機関に情報提供を行っている。また医療機関の地域連携室とも情報共有し利用者の細かな情報提供や入院中の情報を聞き、ご家族の意向も踏まえながら、今後の方向性についても相談している。退院して再度戻って来ることが難しい場合は次の入所先についても一緒に検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に係る指針について説明し同意を得ている。緊急時・急変時についても延命治療の希望など家人に確認している。必要があれば老健、特養などの申し込みも進めている。 ・入居時に施設での対応について書面で説明し同意を得ている。 ・実際、終末期ケアは行っていない。	看取りは行っていないが、緊急時における延命治療のほか、終末期の対応については、契約時に書面で家族に説明確認を行っています。その他、重度化がすすんだ場合は、同法人の高齢者施設の利用が検討され家族の不安の軽減やスムーズな施設利用も可能になっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し職員間で周知している。夜間の救急対応についても流れをセッション会議で再確認している。ISOにも手順記載あり。 急変時の対応研修を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加し、火災訓練、水害訓練を実施している。夜間想定での訓練も実施予定。	定期的に避難訓練が計画され、最寄りの消防署と連携し実施しています。防災用品の備蓄や、緊急時の連絡先、対応フローチャートを掲示しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権委員が中心となり、研修の実施や接遇アンケートを実施している。接遇マナーについてセッションでの目標をかかげ職員全員で取り組んでいる。毎月目標の反省を一人一人が行いとりまとめ会議で報告、問題点があればその都度対応している。	職員研修は、法人全体で実務経験に沿った研修を実施しています。接遇については施設単位で人権委員が中心となって研修やセルフチェックを行っています。利用者の希望に沿って同性介助にも配慮し、場合によって勤務変更するなど柔軟に対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に都度説明を行い、思いを聞いて支援に繋げている。言えない方は表情等で理解している。ご利用者の意志を尊重する声かけを行っている。記録にも残すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向をたずねながら、希望や体調に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を選択できる方には選んでもらっている。難しい方には気候やご本人の好みに合わせて職員が選択している。 月に1～2回美容の訪問あり、本人・家族の意向を聞きながら、散髪・染髪して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けについて、ご利用者にも一緒にして頂いている。 入所前に好みの食べ物やアレルギー、嫌いな食べ物について聞き取り、出来る限り対応している。 定期的におやつ作りを行い、ご利用者にも参加して頂いている。	食材は、敷地内の畑で採れた野菜も使用し、四季折々の食事を調理員により適切な温度、形態で提供しています。食事の準備や片付け、おやつ作りに利用者が参加できるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今までその方が食べてきた量、好き嫌い等を把握してバランスよく食べて頂けるように努めている。 食事摂取量や水分量のチェック、記録を行っている。また利用者の体調や主治医からの指示を考慮し、できる限りの食事療法にも取り組んでいる。 体重増減に伴い提供量も検討し実施している。 水分摂取量が少ない方には、好まれる飲み物の種類をご家族に尋ねたり、飲みやすいコップやタイミングも検討しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの準備を行い、声掛けを行っている。1日1回舌ブラシで舌を磨いている。出来ない方には介助をしている。義歯は毎日消毒を行っている。 歯ブラシ、コップ、ケース、ガーグル等は毎日消毒を行い清潔にしている。 必要であれば、口腔ケアウエットやスポンジブラシも併用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を行っており個々に合ったオムツの選択をしている。ご利用者の意向やADL状況に合わせてポータブルトイレを使用し排泄の自立支援に取り組んでいる。 トイレの訴えの無い方には定期的にトイレの声掛け、案内をしている。食事、入浴前の声掛けもやっている	排泄記録を基に、利用者個々の状態に合わせたパットやおむつの使用を行っています。より適切な使用となるように、フィッターなどの外部業者と連携しています。生活の節目には声掛けによる誘導が行なわれています。	今後、継続的に排泄ケア研修等を実施し、排泄ケアの支援の質の向上に期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量の把握し、水分摂取を勧めている。毎日体操を実施し便秘解消に繋げている。便秘薬についても処置表を基に下剤投与し排便を促している。主治医、ナースとも連携、相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴を実施している。曜日や時間はある程度決まっているが、本人の思いや体調によって随時変更を行っている。	入浴前の体調を確認し、週2回の入浴を行い清潔を保つようにしています。入浴を好まない利用者には清拭など柔軟に対応しています。また、同性介助については、希望を確認し、職員交代をしながら対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間の様子を記録している。日中に活動を提供し、夜間ぐっすり眠れるよう生活リズムを整える支援を行っている。 夜間の排泄は、不潔にならない程度にパッド交換回数を少なくし良眠に繋げている。 ご本人やご家族の意向に合わせ、パジャマ交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬手順書に沿って、服薬準備、服薬介助を行っている。すべてのご利用者の処方内容を把握することは難しいが、ケースファイルに処方内容や副作用についての一覧を綴っており、確認出来るようにしている。 症状の変化あれば記録に残し、看護師や医師に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴を聞き取りし、それに基づいて畑仕事、洗濯干し、洗濯たたみ、編み物、塗り絵、歌等活動提供している。日々の活動を記録し情報共有し個々に合った活動を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで外出の機会が減っているが、ドライブ、周辺の散歩、中庭のベンチで外気浴をしながら体操するなど気分転換を図った。 コロナの状況を見ながら、希望されるご利用者の自宅外出支援を行った。	利用者の体調や希望に沿って、風光明媚な東郷湖周辺へドライブに出かけたり、周辺への散歩、中庭のベンチで外気浴を楽しめるよう配慮しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は希望者数名のみ自己管理されている。 感染対策もあり買い物支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者、ご家族の希望あれば、電話対応している。定期的にご家族から手紙が来るご利用者もいる。 希望あればハガキを出したり、必要があれば代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるようホール内の展示物を利用者と作成し季節や月ごとで変えている。 食事の時には静かな音楽を流している。 温度、湿度を定時でチェックしている。また、窓を開け風を感じてもらえるようにしている。 感染対策で難しい場合もあるが、出来るだけ利用者同士が話しやすい席の配置をとっている。また、居室やトイレへの動線も考え過しやすい空間を作っている。 清掃や環境整備など手順にそって行っている。	事業所内は天窓によって明るく、ホールや各居室はゆとりのあることで開放的な空間となっています。ホールには温度・湿度計が設置され、1日5回程度確認が行われ、快適に過ごせるよう配慮しています。また、四季に応じた制作物の掲示もあり、季節を感じられる空間になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話しやすい席の配置を考えている。 ソファを設置しており自由に使用できるようにしている。 気の合う利用者の方が居られたらその席に移動し話をして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使っていた物やなじみの物をご家族に依頼し、写真、手紙、作品などが見えやすい位置に置いたり飾ったりしている。 毎日清掃し清潔にし居心地よく過ごせるように整理している。	これまでの生活が出来るだけ継続できるよう、希望に沿った物品が置けるようしています。 居室等の掃除は毎朝午前中に行われ、清掃が出来る利用者は一緒に行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋、トイレ、浴室など利用者にもわかりやすく表示している。また、場所が分かるよう物の位置を変えないようにしている。		